

美をめぐる～美術散歩

「色でみる絵画の魅力」

—赤・青・黄・緑—

2021年3月16日

講師 小村 みち先生



「今日の一言」

- 小村先生最後の講義。これで最後かと思うととても残念に思います。
- 色で見る絵画の講義が最終日に授ける事が出来、有難かったです。絵画と色の印象の講義、よく理解出来ました。
- モノクロの絵を見た時に圧倒的な情報の少なさにおどろいた。色の持つパワーイメージを形作る特性の学びは大変興味深く、もっとゆっくりうかがいたかったです。



- 絵画の鑑賞にも好きな作品が色と大きく関係していることを再認識しました。色を表わすイメージや象徴性などを深く学んで、絵画鑑賞や日々の生活に役立てていきたいと思いました。
- 今回も小村先生のお話の深さ広さ、それに説得力に引きこまれました。何となくしかわかつていないこと（本当は分かってないからですが）がきちんと整理されて分かるようになります。今日で終わってしまうのが残念。寂しいです。



- 線→形（普通、理知）に対して、色→形の付属物と知りました。色に対して無意識に暮らしていましたが、これから的生活には色に楽しみが持てます。
- 色の世界も深いなあーと感じました。これからも鑑賞の時も気にしていきたいと思います。
- 色の使い方によって、できあがりのイメージが違うのが良くわかりました。
- 色の特徴を詳しく知れ、絵の鑑賞する時の楽しさにつながりそうです。
- 「色でみる絵画の魅力」の講義、大変興味深かったです。今後絵画鑑賞する際に留意してみたいですね。半年間の講義ありがとうございました。
- 小村先生の最後の授業、とても良かった。色彩のあれこれ、マジックでした。
- 文化圏・時代による色の認識の変せん等を学習。2時間足らずの間に世界感を味わえた。



- 以前から絵は線と色が最も重要な事だと感じていました。何故かと言いますと、20年余り絵を書いていましたが、限界を感じて止めました。実感です。色はいろんなイメージを与えるので楽しいです。

■ 絵を見るときの着目点として「色」はとても重要なポイントなのですね。今までわりと無意識に「この色はきれい」とか思っていましたが、これからはその色のもつ意味についても考えてみたいと思います。ありがとうございました！

《在籍者数 20 名 (うち長欠者 名) 出席者数 16 名 》

【クラスアドバイザーコメント】

- 様々な困難の中本日までCAを務められたのは、皆様の美術や講座に対する情熱によるものと感謝致します。今期はクラスの親睦を深めるまでに至らず心残りです。是非このメンバーでこれからも美術館巡りしたい！どうぞよろしくお願いいいたします（岸本）
- コロナ禍の為講座の縮小がありました。カリキュラムも変更が相次ぎ何とか曲りなりに終了することが出来ました、講師の先生受講生の皆様のご協力を頂きありがとうございました。これからも美をめぐりましょう！

修了式 午後からの・・・



美をめぐる～美術散歩

美術館巡り⑧ 西宮市大谷記念美術館
「競演 近代日本画 - 新旧コレクションの魅力」

3/9 担当： 3班 西川 愛美

西宮市大谷記念美術館を訪ね、「競演 近代日本画 新旧コレクションの魅力」を鑑賞してきた。新旧とは、美術館の寄贈者である大谷竹次郎氏のコレクションの優品と、近年収集された作品から構成されている。旧コレクションには竹内栖鳳や上村松園といった京都画壇の重鎮のみならず、東京画壇を代表する横山大観や川合玉堂らの日本画も多く含まれている。新規に収集された中には山下摩起や下村良之助らの作品があり、斬新な絵画手法で日本画壇に革新をもたらし続けた。新旧それぞれ、逸品揃いのコレクション展であった。

もう一つの企画として、現代美術作家・奥田善巳の没後10年を機に「ネガとポジ・空間と平面」の特集展示が行われていた。新たな表現を模索し続け、シンプルな構図の中にも想像力を掻き立てられる個性的な作品群であった。震災後には、黒の地塗りに藍青色で暗闇を拭い去るかのような作品もあり、心に強く訴えかけるものがあった。

本展で感じたことは、日本画と西洋画の二項対立的なジャンルではなく、日本画は西洋絵画の影響を受け融合しながらも、その時代が変化する空気を画家たちが読み取り、独自の解釈や視点で作品を生み出してきた。こうしたことを考えながら、青石を敷き詰めた池の水面がきらきらと輝く庭で、心穏やかな時間を過ごすことが出来た。





美をめぐる～美術散歩

ヨーロッパの宝石箱「リヒテンシュタイン侯爵家の至宝展」

あべのハルカス美術館

会期:2021.01.30～2021.03.28

美を巡る～美術散歩の講座―“美術館巡り”にコロナ禍をめげず20人？ほど参加

入場者全体の入場者数もほどほどで久しぶりに心地よい空間を楽しめました。



リヒテンシュタイン侯国は、オーストリアとスイスに挟まれた小さな国です。

かつて、神聖ローマ皇帝に仕えたリヒテンシュタイン侯爵が統治した地が世界で唯一君主(侯爵家)の家名をもつ国になっています。

公爵家は12世紀以来の長い歴史を持ち、歴代にわたる美術作品の収集によって高い名声を得ています。クラーナハ(父)、ヤン・ブリューゲル(父)ら侯爵家秘蔵の油彩画63点をはじめ、華麗な宮廷の空間を彩った陶磁器52点など全126点のコレクションにより、優美なヨーロッパ貴族の生活や文化の香り、雰囲気を身近に感じゆったりした時間を楽しめる展示でした。

一方楽しみにしていた著名な画家の油彩画は少なく陶磁器(中国・日本・ウイーン窯;マイセンに次ぐヨーロッパで2番目となる磁器窯)52点がメインとも思える作品の展示で、個人的には若干不満の残る秘宝展であった。

川口義行



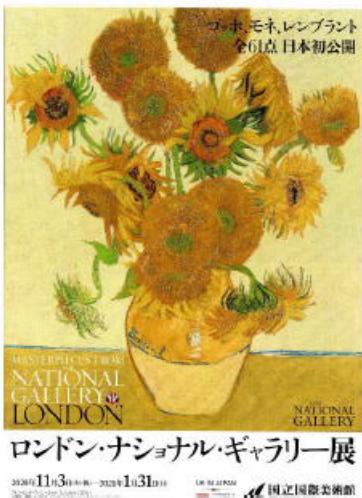


美をめぐる～美術散歩

美術館巡り ⑤ 国立国際美術館

ロンドン・ナショナル・ギャラリー展

12/15 担当：犬飼 弘子



高い名品のうち61点が今回海外初公開となりました。このギ



集 II オランダ絵画の黄金時代 III バンダイクとイギリス肖像画 IV グランドツアー V スペイン絵画の発見 VI 風景画とピクチャレスク VII イギリスにおけるフランス近代美術受容)



私たち“美をめぐる～美術散歩”の第8期生は、12月15日国立国際美術館で開催中の「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」を見学しました。小村みち先生からこの展覧会について講義を受けており、見学を楽しみにしておりました。

このギャラリーは13世紀後半から20世紀初めにかけての絵画作品を収集し、しかも質の

ギャラリーは他のヨーロッパの美術館とは異なり、王族のコレクションをベースとせず、市民の力で作り、市民のための美術館として今に至っています。会場に入り、展示リストを片手に、7部門（イタリア、ルネサンス絵画の収



を巡りました。どの部門にも心に残る作品があり、各時代の歴史、イギリスがイタリア、オランダ、スペイン、フランス等の美術をどう解釈し、受け入れたがくみ取れるように思い、イギ

リス独自のグランドツアーやもたらしたもの、肖像画（特にカンバセイションピースの絵）や風情ある風景画の進展に、心和み、満ち足りて会場を後にしました。今回の61点の絵画は観覧者にナショナルギャラリーの全容を伝える最適の選択だったと感じました。

美をめぐる～美術散歩

＜史跡・名勝　松花堂　庭園・美術館＞



●日時:2020年11月17日(火) 参加人数:19名

●場所:京都／京阪樟葉駅よりバス利用

●天候:雲一つない、良いお天気に恵まれました

担当: 4班 越智 公子

◆松花堂昭乗(しょうかどうしょうじょう)◆

石清水八幡宮の住職をつとめ、真言密教の奥儀を極めた人物で、隠居後に建てた草庵を「松花堂」と名

付け、自らも「松花堂昭乗」と名乗った。

また、江戸時代初期を代表する文化人としても有名で、茶の湯、書、絵画を得意とし、特に書は、近衛信尹、本阿弥光悦と並んで“寛永の三筆”と称されている。



【美術館】

令和2年秋季企画展 「近世画楽多 ～きんせいが たのしみおおし～」

まず最初に美術館へ。通常は各実作品の前で説明を聴けるはずが、今回はコロナの影響の為、別部屋でスライドを見ながら解説を伺う形になったのが少し残念でした。

* 学芸員の川端さんが司会、講師は影山先生

そもそも「近世画楽多」とは、桃山時代から江戸時代までの間に生み出された作品の総称で、町人文化のはしりと言われています。

近世初期に当たる桃山時代には、権力者や武将たちに重用された狩野派をはじめ、各地で実力ある絵師達が流派を形成して絵画制作を行い、江戸時代になると、絵画を見て楽しむ人々の増加とともに、制作される絵画もバラエティに富み、個性あふれる楽しい作品が多く登場したそうです。



今回は、その中から屏風や絵画、書簡などの31作品を拝見する事ができたのですが、非常に繊細でありながらも力強さを感じる作品もありましたし、墨一色で描かれた物や、鮮やかな色味で描かれていた作品等、色々でした。

また、当時の人々の様子が楽しく描かれている作品もあり、その背景となるストーリーも興味深い物でした。

【庭園】

約 22,000 m²の広さがあり、文化財に指定・登録されている草庵「松花堂」を含む、3つの趣のある茶室がありました。ですが平成 30 年の大坂北部地震の影響で、内園は復旧工事が行われており、外園の一部の見学となりました。ですが、紅葉も色づき始めていましたし、久しぶりに季節を感じる楽しいひと時となりました。



【昼食】

京都吉兆／松花堂店 で 松花堂弁当を頂きました。少しづつ、彩りよく配置されたお弁当で、お口だけでなく、目からも美味しく頂く事ができました。



美をめぐる～美術散歩

美術館巡り④ 京都市京セラ美術館

「京都の美術 250年の夢」

10/27 担当：3班 西川 愛美

リニューアルした「京都市京セラ美術館」の開館記念展を訪ねた。設計担当者で館長でもある青木氏は、「建築や作品だけが目立つことより、両者が一体となってこそその展覧会体験であり、空気を変えることを目指した」というように、私たちを心地よく美術館へいざなってくれる工夫がいくつも施されていた。中央ホールから東に抜けると、ガラス窓から東山や日本庭園を眺めることができ、爽やかな秋を感じながら豊かな時間を過ごした。



江戸から現代まで約250年間の歴史を彩った名品が全国規模で集められ、3部構成で紹介されている。6/2-9/6開催の「最初の一歩：コレクションの原点」と合わせて鑑賞すると、京都の美の系譜がより鮮明となる。本展では時代ごとの背景や傾向、伝統の継承と新たな表現への挑戦、東洋と西洋の融合を試みながら日本美術が、独自性と多様性を追求し続ける力強さを痛感

した。今後の展望も垣間見ることのできる見応えのある記念展であった。



美をめぐる～美術散歩

美術館巡り特別編 大阪南港 ATC ギャラリー

バンクシー展 ---天才か反逆者か---

10月20日（火）14:00～ 担当：野口憲一

美をめぐるの班別打ち合わせで、「バンクシー展・天才か反逆者か」・が大阪南港で開催されるとの情報を得て、早い時期に鑑賞しようということで行きました。

日時指定の鑑賞券を事前に購入した会場では、若者を中心に鑑賞者は多かった。会場では最初に世界中にあるバンクシーの作品紹介があり、かなりの屋外作品があることを知りました。

「愛は空中に」爆弾の代わりに花束を投げる作品 パレスチナのヨルダン川西岸ベツレヘムのストリートアート

「爆弾愛」ポニー・テールの無垢な少女が、爆弾を熊のぬいぐるみのように抱いている作品

「パルプ・フィクション」2人が所持しているのは銃ではなくバナナに置き換えている作品

「分離国会」英国において EU 分離問題で揺れていった議会を風刺 人間を猿に置き換えている作品



他にもネズミを題材にした作品が多く、作家もネズミに対する独特の考えがあるようだ。



出品されなかつたが日本では、「傘をさし鞄を持ったネズミ」（東京・日の出での作品）が、バンクシー作と言われていた。



ビデオでは 2018 年 10 月 サザビーズ・ロンドンのオークションにおいて、価格決定後の「風船と少女」の絵画裁断の様子が再現されていました。

1 時間余りの鑑賞ではありましたが、満足感は結構高かったです。バンクシーの正体が明確でなくストリート作品の真贋がはっきりしないなど、謎が多い作家ではありますが、風刺をはじめ面白い作品が多いのに惹かれました。今後日本のどこかで作品に会える日を楽しみにして、会場を後にしました。



美をめぐる～美術散歩

美術館巡り② 大阪市立東洋陶磁美術館

特別展「天目-中国黒釉の美」を鑑賞

10月13日担当：2班 本家 公一

中国・唐～金時代の黒釉陶磁器に近現代の作家による天目作品を加え、多彩な表現を鑑賞

本日の一点 「国宝 油滴天目」

中国・宋時代の黒釉の碗が鎌倉時代から室町時代に輸入され現代まで伝わる。



中国・南宋時代から数世紀を経ても
今なお見る人を魅了し、永遠に輝き続けるのか。感謝と感動の瞬間でした。



美をめぐる～美術散歩

美術館巡り① あべのハルカス美術館

「奇才～江戸絵画の冒険者たち」

担当：1班 犬飼 弘子

「美をめぐる～美術散歩」講座の今期私達受講生は揃って9月29日に美術館に行きました。

あべのハルカス美術館で開催されている「奇才」展です。

奇才とはと興味津々で入場し、最初の展示作品が葛飾北斎の屋台天井絵、構図と鮮やかな色使いに感嘆しつつ、展示方法の巧にも駆られ、期待がより膨らみます。次から次へと見て回り、時間の経過も忘れがちです。

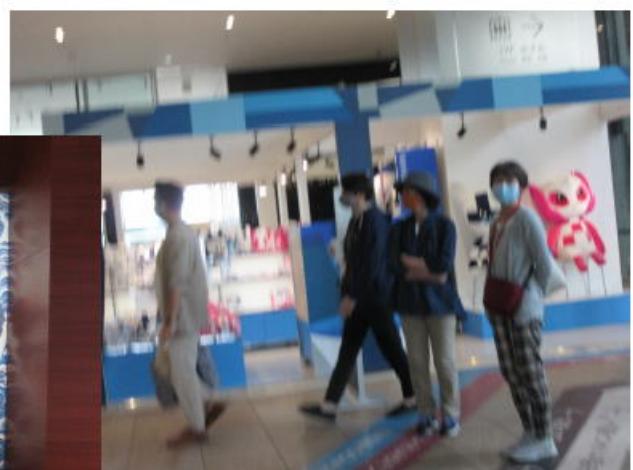
確かに奇才の画家たちの作品です。 が、各々の筋の通った深い心が表現され、甲乙つけがたく、



絶えず顔が綻びます。

特に長澤芦雪の動物たちの表情は私たち人間の反映、浦上玉堂はしっかりと自身の勤めを果たした上で趣味の世界に。

楽しく、教えられる展覧会でした。





美をめぐる～美術散歩

8期生 豊中教室

講義始まりました！！

講義実施日 : 2020年 9月 2日 (水) 時間 10:00~14:20

期生・学科名 : (8 期生) 美をめぐる～美術散歩 科





「今日のひと言」

- 開校ができ、本当に良かったです。後 7か月ですが小村先生も親しみやすそうで、美術館巡りも楽しみにしています。
- 小村先生の自己紹介、全て～全部！！御自分を出して下さってびっくり。自分と繋がるところなどもあって興味深かったです。ガイダンスをお伺いしてこれからのお話がとても楽しみになりました。

【クラスアドバイザーコメント】

●半年遅れで始まり、期待や不安の入り混じった雰囲気の1回目の授業でしたが、小村先生の楽しいお話に皆さんリラックスし笑顔になっていかれたのが嬉しかったです。
班メンバーや各委員が協力しあって、楽しい半年間にていきましょう！CAも皆さんとともに頑張ります！